



# これで解決! 図工の授業

何から変えたらよいか分からないあなたへ

本資料は、一般社団法人教科書協会  
「教科書発行者行動規範」に則り、  
配布を許可されているものです。

執筆 中村珠世

監修 阿部宏行

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索



※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。

※QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

本書は、日々指導に励んでいる先生方の  
疑問や悩みに寄り添いながら、  
一緒に解決の道を見付けていく一冊です。

### 本書の構成

- まずチェック！ 図工で大切にしたいこと ..... 2
- 授業づくりを考えよう ..... 7
- 教師用指導書をうまく活用しよう ..... 33

### 登場人物



**あおば先生**  
悩み多き新卒2年目。  
低学年の学級担任。



**さくら先生**  
5年目。高学年  
の学級担任。



**かえで先生**  
20年目。主幹教諭。  
専門は図画工作科。



**けやき先生**  
かえで先生の大先輩。  
専門は図画工作科。

今日の図工はここまで

う〜ん…

あおば先生 どうしたの？

ありがとうございました

さくら先生… 図工の授業って うまくいっている 感じがなくて…

手が止まる

教科書の見本通り できていれば いいじゃない？

どうしたの？

けやき先生

遊んでいる だけ

ぐちゃぐちゃ

実は……

まずは図工で大切に したいことを確認 した方がいいかねえ

そんなことより すぐに使える指導の コツとかの方が…

大切にしたいことを押さえると、問題が起きたときに そこに立ち戻ることができるよ。 それがあやふやなままコツだけ知っても 形だけになるよねえ

ふむ

ドキッ

そういうもの ですか…？

とにかく一度自分の行動を チェックしてみよう

ハイ…

わたしもやろうっと

こんな構成になっています

こんなことしてない？ チェックリスト

こんな視点で 考えてみよう

図工で大切に したいこと

子どものよさを伝える魔法の言葉は 「すてき」

### こんなことしてない？ チェックリスト

- つい「上手だね」ばかり言ってしまう。
- 何をしているかよく分からない子には、とりあえず「頑張っ！」と言う。
- 何を褒めたらよいか、よく分からないことがある。
- 声をかけるタイミングや言葉に悩むことがある。

どんな子にも「上手」と褒めて、伸ばすようにしているんだけどなあ



### 👉 こんな視点で考えてみよう

「上手(じょうず、うまい)」は、特に「技術や技量が優れていて、他より飛び抜けている」として使われることが多いよね。これは図工が「技術が大事」「そっくりかくことが大切」という考えにつながりかねないところがあるね。技術の向上は、自己実現のための方法であって目的ではないよねえ。

あなただったら、どんなふうに声をかけてもらうとうれしいかな？ 子どものつもりで想像してみよう。例えば、工作でしかけを工夫していたらそこを先生が褒めてくれると気持ちいいね。自分なりに考えて、工夫することには発想力や技能などの創造性の発揮があるから、そこを認めてくれる理解者がいたらうれし

いんだよね。

先生から自然に出てきた「すてき」「きれい」「すごい」などのつぶやきもうれしいし、驚嘆の表情からも言葉以上に伝わってくるものがあるんじゃないかなあ。

さて、教師の視点に戻すと、授業中に子どもが何をしているのか分からないときもあるよね。その場合も何をしているのかを怒ったような表情で聞くのか、興味をもって問いかけるのかでは、子どもの受け止め方が違うよね。先生に「叱られている」と感じるのか、「こうしたいのにうまくいかないんだ」と相談したくなるのか。子どもたちとの日頃の関係性の積み重ねがあって、見えてくるもの・伝わる言葉があるんだねえ。



子どもがうれしくなる言葉、思わず話したくなる問いかけがいいねえ

### 図工で大切にしたいこと①

# 子どものよさを伝える魔法の言葉は「すてき」

### こんなことしてない？ チェックリスト

- 教師の説明や指示がつい長く(多く)になってしまう。
- 授業中、子どもがあまり楽しくなさそう。
- 子どもが図工と関係ない話をしながら活動しているけれど、楽しそうなので注意しないことがある。
- 授業中、子どもが夢中になって話す声はあまり聞こえない。

楽しく活動してほしいのに、思い通りにいかないことが多くて……



### 👉 こんな視点で考えてみよう

どんな授業を目指しているのかなあ。「無言で画用紙に向かう授業」かな、「わいわいと子どもの声が響く授業」かな。発達によって違いはあるけれど、子どもに「黙ってつくりなさい」というのも変だよなあ。かといって、授業に関係のない話があちこちで起こるのも困るね。

例えば、再現的な絵をかくような題材では「似ている・似ていない」に関する話が多くなるけれど、これは、目標が1点に集中することで生まれるつぶやきなんだよねえ。子どもが自ら考えを巡らせたり工夫したりすることが少ない題材だともいえるね。いちばん

避けたいのは、「作業」のようにただ手を動かして同じようなものをつくること。そこでは、主体的で創造的な思考が働かずに、つくることに無関係な「おしゃべり」が発生してしまうんだよね。

子どもたちから「いいこと考えた!」「この色いいでしょ」とか、「見て見て、きれいでしょ」「ここどうやったら接着できるかなあ」などの製作に関わるつぶやき、ひらめき、発見の言葉が自然に出てくるのはいいねえ。先生からの指示や禁止事項が多い指導は、子どもが委縮してしまうよね。そうすると受け身の姿勢が身に付いてしまうことになるねえ。



子どもが夢中になったり、発見を伝えたくなくなった環境を整えるのが大事だねえ

### 図工で大切にしたいこと②

# 子どものつぶやき、ひらめき、発見の言葉でいっぱい

### こんなことしてない？ チェックリスト

- 教科書に載っているような作品をつくらせたい。
- 指導の仕方がよく分からないので、  
自分が子どものころに経験した作品をつくらせている。
- 教科書の通りに指導しなければいけないと思っている。
- 教科書のように行いたい、子どもたちの経験に  
差があり諦めたことがある。

教科書に載ってるよ  
うな作品をつくるの  
がゴールですよね？



### 👉 こんな視点で考えてみよう

教科書には、子どもの発達や学習指導要領に示すねらいを踏まえて、学習の環境や提案の仕方など先生の働きかけが示されているね。活動中の子どもの表情がいいよねえ。でもね。クラスの子どもたちは、みな個性も経験も違う存在だよ。集められる材料が違うこともある。自分のクラスの子どもたちが成長する姿を思い浮かべながら、熱中して取り組める題材を考えたいね。

題材づくりは先生の創造的な仕事なんだなあ。教科書の題材は参考例として、自分の学級に合わせて再構成してもいいねえ。

具体的には、学習指導要領が示す内容を基にして、使う材料や用具のことも考えながら年間指導計画を立てるよ。材料の保管場所や使用する用具の点検などもしておくよと安心だね。保護者や学年の先生方にも協力してもらおうと準備も心構えもできるよ。

題材名は、子どもと題材との出会いのカギになるよ。「面白そう」「やってみたい」と意欲がわくとともに活動も内容がつかめるものもいいねえ。相手のことを思ってプレゼントを選ぶように題材を検討したら、「どんな言葉を添えて渡そうかなあ」と、子どもも先生もわくわくするような導入の演出も考えるといいねえ。



目の前の子どもたちに合わせて、教科書の題材をアレンジするといいよ

### 図工で大切にしたいこと 3

## 子どもの実態に合わせて 題材を考えよう

### こんなことしてない？ チェックリスト

- 子どもから「材料がない」と言われ、焦ることがある。
- 授業の途中で足りない用具を取りに行くことがある。
- ねらいやポイントを考えずに授業を行って、  
うまくいかないことがある。
- あとから追加の説明や指示を思い出し、  
子どもの活動を止めてしまうことがある。

材料や用具は一通り揃えているつもり  
なんだけど……



### 👉 こんな視点で考えてみよう

事前に、子どもが使用する材料や用具で実際に試すことで「こんなとき失敗する子どもが多く出てきそう」「失敗したときの予備も用意しておこう」などの気付きにつながるよ。子どもと同じ条件でつくってみたり、かいてみたりすると「あの子はここでつまずくかもなあ、そのときの手立ては……？」というように、子どもの動きの予測と対応策を考えることができるねえ。

「片付けの時間も入れて、製作時間をどれくらいとるか」「時間内に終わりそうもない子への配慮をどうするか」なども事前に決めておきたいね。手先が器用な子どももいれば、体験不足から思うようにできない

子もいるから、それぞれの対応も考えたいよね。

授業が始まったら、子どもは自分で考えたことを行動に移そうとするよ。そこからは「子どもの時間」なので、安全面での配慮以外は基本的に子どもに委ねることになるよねえ。だから「教材研究」の精度を上げることで先生の想定と子どもの実態のズレを事前に埋めることができるんだね。

それでも授業では予想外のことが起こるよね。授業中だと焦ってしまうこともあるけど、そんなときも子どもの思いを受け止めて、それを実現する支援ができると最高だねえ。



教材研究は「先生の引き出し」を増やす時間なんだよねえ

### 図工で大切にしたいこと 4

## 授業前の準備が何より大切

## こんなことしてない？ チェックリスト

- 失敗しないように、細かいことまで指示や説明をしている。
- できるだけ、みんな同じ方法にしたら失敗しないと思う。
- 失敗しそうだと思ったときは、その前に手を出している。
- 失敗した子には、とりあえず新しい材料を渡している。
- 失敗した子には、上手な表し方を教えてあげている。

成功体験によって自信をつけさせたいんです



## 👉 こんな視点で考えてみよう

子どもが「こうしようと思ったけど、思った通りにはならなかった」という失敗はいくつもあるね。でもその“失敗”って本当に失敗なのかな。その子がそれを実現しようとしたときに、いろいろ考えたり試したりしたんじゃないかな。失敗をさせないように先回りすることで、資質・能力を発揮する機会を奪っていることにならないかな。

試しながら本人が「別の方法もあるな」と解決のヒントを見付け出すことが理想だね。それでも思い浮かばないときに先生から「こんな方法もあるけどどう？」と提案できたらいいねえ。製作中に起こり得る「失敗」は、次への意欲や粘り強さを育てるチャンス。「挑戦

の証」として、見守ることのできる環境をつくれるといいよねえ。

半面、“指導の失敗”はなくしたいよね。材料や用具が適切でなかったり、活動場所の設定がよくなかったりすることで起こる失敗だね。

これは、先生自身の“直接的な体験”の不足から起こることが多いので、先生が子どもと同じことを事前に体験しながら「あの子には」「この子には」と、子どもの目線で指導を考えられるといいよねえ。

それにはやっぱり、先生が授業前に行う「教材研究」が大切なんだねえ。



“失敗”にもいろいろあるねえ。  
先生の指導の失敗はなくしたいなあ

## 図工で大切にしたいこと 5

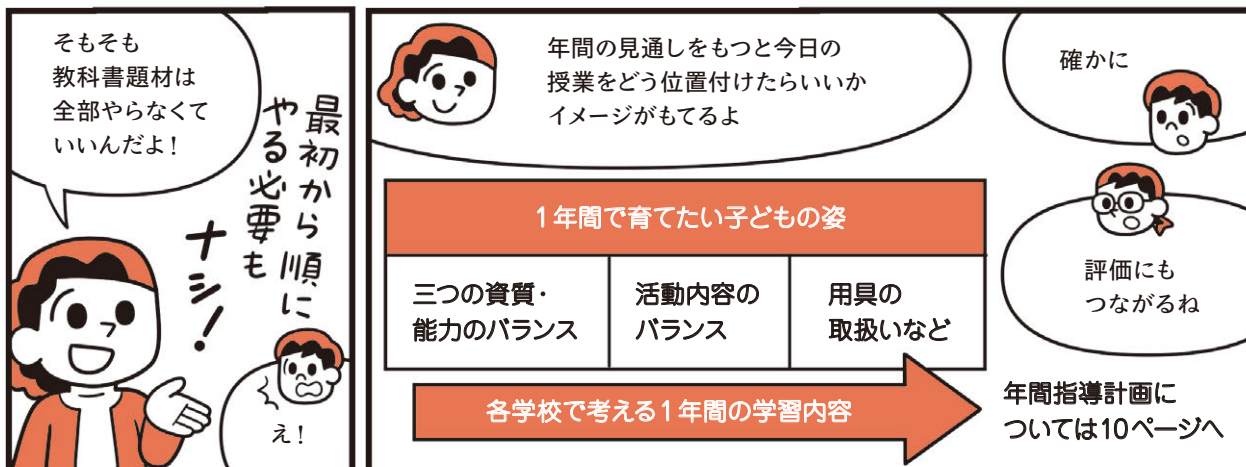
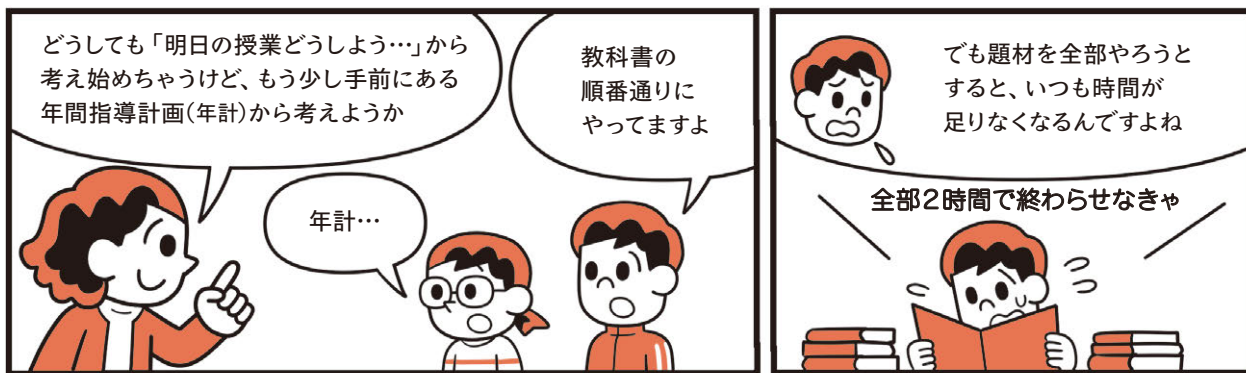
# チャレンジの失敗は「次のヒント」発見のチャンス

「図工で大切にしたいこと」を基に…

# 授業づくりを考えよう

図工で大切にしたいことは分かったものの、授業の中でどう実現していけばいいの……？  
ここからは、授業づくりのポイントを解説していきます。





# 1. まず先生が、子どもになったつもりでやってみよう

教科書の題材は参考例です。掲載されている指導の内容や作品例を参考にしながら、まず先生自身が子どもになったつもりで、試しにやってみたりつくったりしてみましょう。その中で、先生が「面白いな」「ここは少し難しいかも」などと感じたことが、題材や授業づくりのヒントにつながります。

## ● 「もし、あの子だったら……」と想像してみよう

- ▶ 面白いアイデアが浮かぶあの子だったら……
  - ▶ 細かいところまで大切につくるあの子だったら……
  - ▶ 図工が少し苦手なあの子だったら……
- など、何人かの姿を思い浮かべて「あの子だったらどんなことするかな」と想像しながら取り組みましょう。



## ● 「もし、材料を変えてみたら……」と試してみよう

例えば、紙を破ることをきっかけに絵に表す題材(1・2上)では、【色画用紙・クラフト紙・新聞紙】の3種類の紙が教科書の作品例で使われています。紙によって、色だけでなく厚さや硬さなども異なり、破るときの感触や破れ方も変わってきます。接着も子どもと同じ用具で試すなど、子どもの立場で考えてみましょう。



教師用指導書のココ!

## 2. 資質・能力に基づく目標を考えよう

[こんな視点をもって取り組んでみよう]

### 子どもが資質・能力を発揮している姿をイメージしよう

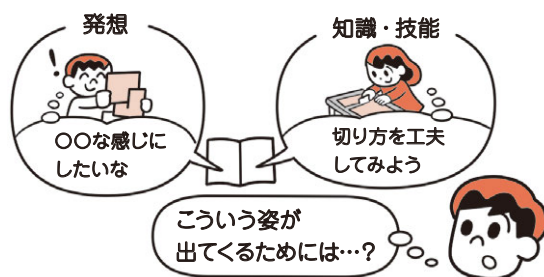
#### ●子どもの「学びの経験」を整理しよう

材料や用具、技法といった前学年までの既習事項について整理してみましょう。子どもの「学びの経験」を整理することで、目標に到達するための手立てを考えることができます。子どもの実態を踏まえて、指導内容を考えてみましょう。



#### ●教科書を参考に

教科書には、三つの資質・能力(知識及び技能・思考力、判断力、表現力等・学びに向かう力、人間性等)を踏まえた育てたい力や活動の様子などが示されています。その題材において、子どもが資質・能力を発揮している姿を考えながら、題材の目標を設定しましょう。



#### ●子どもが「挑戦したい」と思えるように

少しの抵抗感は、子どもの意欲を高め、工夫する姿を引き出すきっかけになります。「ちょっと難しそうだけど、友だちの工夫をヒントにしたらできるかもしれない」「挑戦したい!」と思えるような「適度な目標」の設定によって、子どもたちが資質・能力を発揮する場面を題材の中につくっていきましょう。



子どもが資質・能力を発揮する姿を考えていくと、「何をつくる(かく)か」「どんな活動にするか」など、その題材での学習の内容や流れが決まっていきます。

年計とは?

年計は目の前の子どもたちに合わせ、どんな資質・能力を育むかを意識しながら考えるものです。各自治体の教育委員会や教科書会社が提示する『年間指導計画例』などを参考にしながら、子どもや地域の実態、各小学校の環境を踏まえて内容や時数をカスタマイズしてみましょう。

さらに詳しく ▶ 令和6年度版 指導者用デジタル教科書(教材) ▶ これぞ解決! 図工の授業【電子ブック】巻末 日文の公式Webサイト ▶ 小学校 図画工作 ▶ お役立ち情報 ▶ 年間指導計画例

教師用指導書のヨヨ!

朱書 朱書編 → 各題材 → 資質・能力を発揮する子どもの姿/作品解説/関連(他の題材/他の教科)

朱書 朱書編 解説 指導解説編 → 各題材 → 題材の目標/育てたい子どもの姿

## 3. 「伝えること」「伝えないこと」を考えよう



### 先生の指示ばかりになっていないかチェック

#### ●共通にすることは?

学習のめあてや時間など、活動に取り組む上で全員が見通しをもつべきことは、共通の内容として伝えましょう。



#### ●一人ひとりが考えることは?

表したいことや工夫することなどは、子どもが自分自身で「こうしよう」と考えたり、決めたりする場面を設定しましょう。



#### ●教えるべきこと、教えてはいけないこと

用具の使い方や安全指導などは必ず指導します。一方、子どもが工夫することや気付きそうなことは先に教えず、見守りましょう。



#### ●実際にやってみて感じることは?

子どもは実際に材料や用具を手に取りやってみることで、いろいろなことを感じたり、自分の感覚を通して分かったりしていきます。



教師用指導書のヨヨ!

朱書 朱書編 → 各題材 → 簡略指導案/ポイント/気をつけよう

解説 指導解説編 → 各題材 → 指導計画/指導の手立て

指導者用 デジタル教科書(教材) → 授業動画

# 4. 子どもと題材の「出会いの場面」を大切にしよう

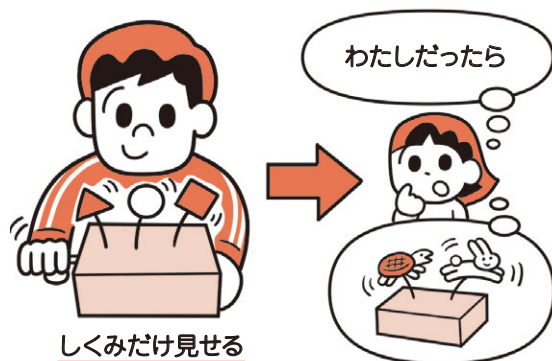


[こんな視点をもって取り組んでみよう]

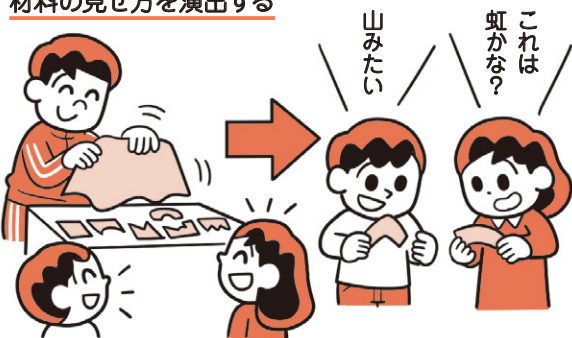
## 👏 プレゼントをもらう子どもの気持ちになってみて

### ●「わくわく」「やってみたい!」が生まれる出会いにしよう

わくわくする気持ちは活動に向かう原動力です。「面白そうだ」「やってみたい」といったわくわくする気持ちが生まれたら、子どもは材料や場所に向かっていきます。導入では、子どもたちにプレゼントを贈るような働きかけで、材料や活動に対する興味や関心を引き出しましょう。



### 材料の見せ方を演出する



### ●子どもは「やってみたいこと」「表したいこと」が生まれたら動き出す

材料を触ってみたい、活動場所を見て回ったりするなど、材料や場所などに関わる中で「わたしはこうしたい」という目標が生まれたらOK! 子どもたちは先生の指示がなくても、自分なりの方法で動き出します。

### ●製作手順の説明ばかりになっていないかチェック

題材の見通しをもたせるためとはいえ、必ずしも活動の始めから終わりまでの流れを詳しく説明する必要はありません。「この材料をこうしてみたら?」「ここで〇〇をしてみたら?」というように、題材への興味や関心を引き出す言葉かけを大切にしましょう。



### ●完成作品でゴールを示すことは本当に必要?

ゴールが分かると、興味や関心は薄くなってしまふもの。大切なのは、活動の見通しをもてるようにすることです。子どもたちが自分なりに「〇〇になったらどうなるか」「〇〇してみよう」と構想を膨らませる姿を導入で引き出しましょう。ただし、個別の指導が必要な場合は、完成作品で具体的な活動のイメージをもてるようにすることもあります。



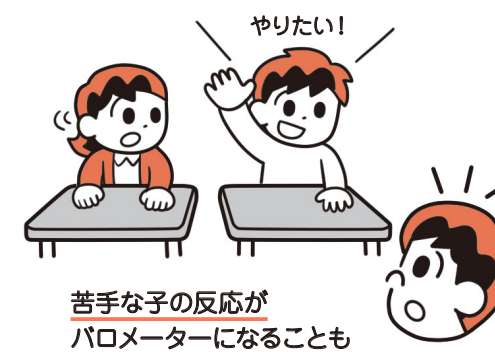
### ●題材名と提案する言葉を工夫しよう

「トントンどんくぎうって」(3・4上)のように活動のイメージを伝える題材名もあれば、「あんなところがこんなところに」(5・6上)のようにわくわくする気持ちやイメージを引き出す題材名もあります。教科書を参考にしながら、題材のねらいや活動に合わせて、どんな題材名でどのように提案するとよいか考え、工夫しましょう。



### ●どんな子も「やってみたい!」と思えたら、題材との出会いは成功

教室には図工に対して苦手意識をもっている子どもいます。題材との出会いの場面では、そのような子どもの表情や手の動きなどにも注目しながら、どの子にも「やってみたい」と心に火が灯ったかどうかを見取りましょう。



教師用指導書のココ!



## 5. 学習内容によって場所や配置を考えよう！



【こんな視点をもって取り組んでみよう】

### 協働的で対話的に学ぶ子どもに合わせて

#### ● 授業のねらいに合わせて

造形遊びなどのような場所が合いそうか、絵に表す活動なら、工作なら……と活動内容や授業のねらいに合わせて場所を決めましょう。

#### ● 近くの友だちと見合う・話し合う

ふと顔を上げると友だちの様子や表現が目に入る座席の向きや配置になるよう工夫してみましょう。表現のよさや工夫などを交流する姿が生まれます。

#### ● 共通の材料・用具コーナー

##### +安全面の配慮

活動中の子どもの動線をイメージしながら、材料・用具コーナーの場所を考えてみましょう。移動の途中で友だちの活動を見たり、それによって気付いたりする姿を引き出すことができます。

また、電動糸のこぎりやグルーガンなど電源になく用具や、のこぎりなどの刃物を使うときは、隣との距離を十分に取り、コードが手や足に引っかからないようにテープで固定するなど、安全面にも十分配慮しましょう。



教師用指導書のヨヨ!

## 6. 材料・用具を考えよう！



### 一人ひとりの工夫が生まれる材料・用具を

#### ● 材料探しも大切な活動

身の回りにはさまざまな形や色、質感のものがあります。「この形、使えるかも」「この触った感じを写してみたら……」など、材料からの発想を楽しみながら、自分が使いたい材料を探すように促してみましょう。

#### ● 「○○ならこの材料」になっていない？

例えば「絵をかくときは白い四つ切の画用紙」といった先入観で材料を用意していませんか。題材で育てたい資質・能力に合わせて考えると、画用紙の大きさや枚数など、柔軟に設定できそうですね。

#### ● 教材のセットは「材料」をうまく活用して

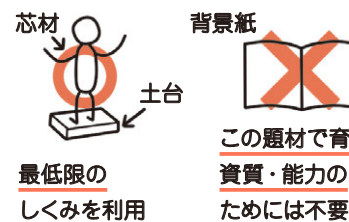
材料がセットになっている教材は、そのまま使うとみんな同じような作品になりがち。一方で「どの子にも共通の材料がある」という利点もあります。活用の仕方を工夫することが大切です。

#### ● 用具を使うときの「コツ」を子どもとの合言葉に

例えばカッターナイフの刃を出すときには、「1カチ、2カチだね」というように、子どもから出された言葉やどの子にも分かりやすい言葉を使って、共通の合言葉をつくってみましょう。



紙の形から発想が広がることも!



教師用指導書のヨヨ!

# 1. 子どもが必要な情報を キャッチできるようにしよう



[こんな視点をもって取り組んでみよう]

## 必要なタイミングで活動に生かせる情報を

活動時間の見通しや手順、用具を使うときに気を付けることなどを先生がまとめて伝えても、その情報を必要とするタイミングは子どもによって違います。活動の途中で「用具の使い方、どうだったかな」「友だちの工夫を見てみたい」と感じたときなど、子どもが必要なときに見て、活動に生かしていくことができるようにしましょう。

### ● ICT 機器を活用しよう

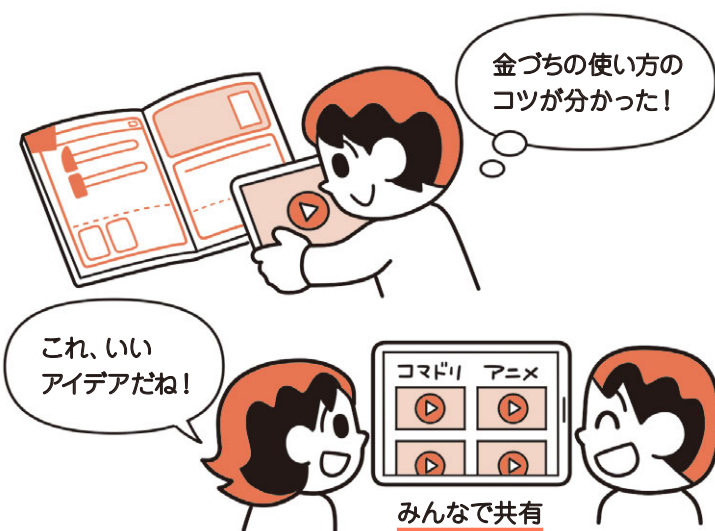
子どもが持っているタブレット端末などを活用すると、写真や動画などの撮影や確認、共有が簡単にできます。学年や活動内容に応じて、効果的な使い方を考えましょう。

#### ▶ 用具の使い方

初めて使う用具は、教科書のQRコードから使い方動画を確認しましょう。必要に応じて何度でも見ることができます。

#### ▶ いろいろな表し方

基本的な技法や、友だちのいろいろな表し方を写真や動画で共有しておくことで、表現のヒントになります。



### ● 掲示物を活用しよう

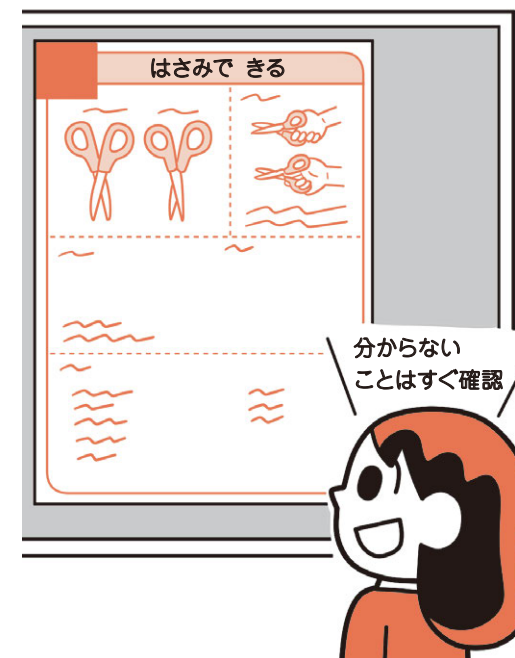
#### ▶ いろいろな表し方

いろいろな表現を内容で整理し、短い言葉を添えて掲示すると、ポイントが分かりやすくなります。



#### ▶ 用具の使い方

教師用指導書の大判掲示資料には、用具の使い方に関するものが多くあります。説明するときに使用し、そのまま掲示しておくといいです。



### ● 板書で伝えよう

#### ▶ 時間の見通しや手順

活動終了の時間や、活動の進め方などは黒板に示していつでも確認できるようにすると、見通しがもちやすくなります。



### ● 座席の配置を工夫しよう

#### ▶ いろいろな表し方

4人程度のグループで向かい合うようにすると、友だちの活動が目に入りやすく、工夫を見たくなったらすぐに参考にすることができます。



教師用指導書のヨヨ!

授業前  
授業中  
授業後

## 2. 子どもの活動に応じた導入を考えよう



[こんな視点をもって取り組んでみよう]

### 活動の見通しをもてるようにしましょう

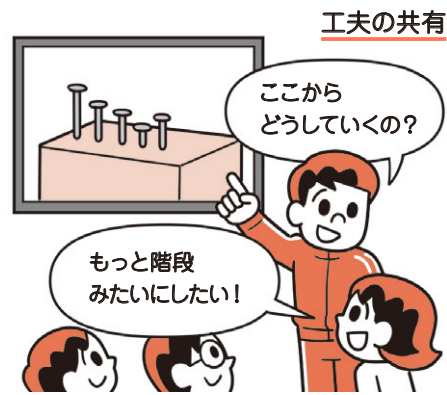
#### ● 毎時間、同じ導入がよいとは限らない

導入は、子どもたちがよりよく活動ができるようにするための先生の関わりです。題材の中で、本時がどのような位置付けかを意識して導入の仕方を考えてみるとよいでしょう。例えば、題材を通して見ると「表現の方向を考える」「工夫しながら表現する」「表現などを見て話したり考えたりする」など、大まかな活動場面に分けることができます。本時がそれらの活動場面の変わり目であれば、授業の導入は丁寧に行い、子どもが活動のポイントをつかめるようにすることが大切です。一方、前時から続けて活動を行う場面であれば、表現しているものや振り返りを基に、これからどのような工夫をするかを一人ひとりが考える時間を取るようにするとよいでしょう。

題材のはじまり	指導計画	働きかけ	
↓ 終わり	表現の方向を考える	活動のポイントが分かる関わり	全体
	表現する	活動のポイントが分かる関わり	全体
	製作に見通しをもつ	どのような工夫をするか一人ひとりが考えるための関わり	個別
	振り返り	活動のポイントが分かる関わり	全体

#### ● 本時の「表したいこと」「工夫したいこと」を引き出そう

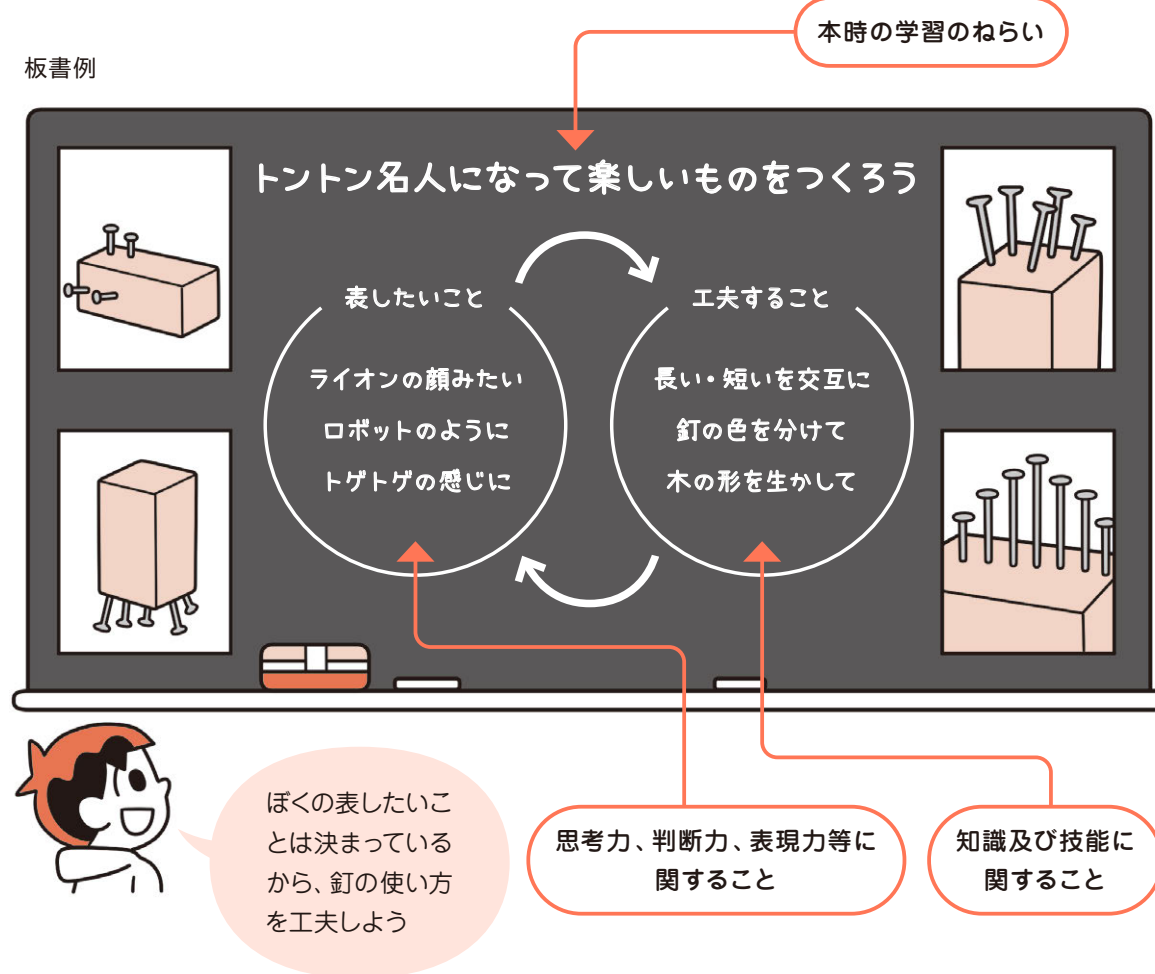
授業の導入では、子ども一人ひとりが「今日はここを頑張ろう/〇〇をしてみたい」などの活動の見通しをもてることを第一に考えましょう。ICT 機器を活用して友だちの活動の様子や表現の工夫を紹介したり、友だちと互いの表現のよさや工夫したことを交流する場を設けたりするなど、子どもの様子や学習内容などに合わせて導入の仕方を考えてみましょう。



#### ● 黒板で整理しながら、資質・能力を明確に

本時の活動内容が分かるように板書で整理してみましょう。資質・能力ごとの具体的な例があると、一人ひとりが活動の見通しをもちやすくなります。先生にとっても、指導することが明確になりますね。

板書例



#### ● 活動の時間の見通しもしっかりと

活動後の振り返りや片付けも大切な学習の一部です。短い時間で慌てて行うことのないように、全体のバランスを考えて時間配分を行いましょ。時間の目安はあらかじめ黒板などに書いておくと、子どもも時間を意識しながら取り組みやすくなります。



教師用指導書のココ!

# 3. 授業のはじめは全体を見よう /

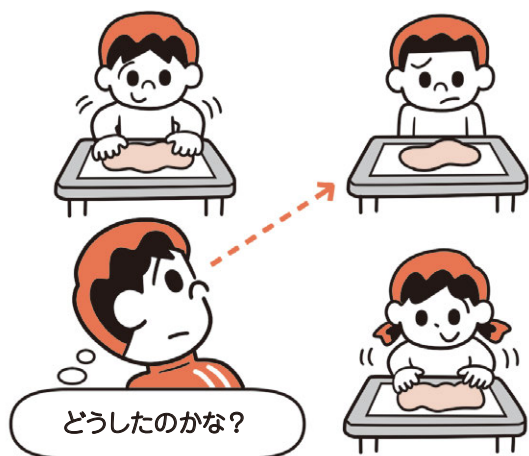


[こんな視点をもって取り組んでみよう]

## どの子ども活動をスタートできている？

### ● なかなか動き出せない子を キャッチしよう

授業の導入を終え、子どもたちが活動に入ったときに先生が行うことは、まず教室全体を見て、どの子ども活動に入ることができているかを見取ることです。スムーズに活動をスタートする子どもたちの中で、なかなか動き出せない子がいるかもしれません。そのような子どもを見つけたら、個別に支援を行い、活動に入れるようにしましょう。



### ● 困っていることを探って支援しよう

上記のような子どもをキャッチしたら、その子が困っていることに応じた支援を行いましょう。困っている内容はさまざまで、うまく言葉にできないこともあるかもしれません。言葉がけは最低限に、子どもの表情や手の動きなどを見たり、それまでの子どもの様子と結び付けたりしながら、どんなことに困っているのかを探っていきましょう。



様子を見た上で待つ

## 👏 スタートできない理由に寄り添おう

### ● したいことがなかなか 思い浮かばない子には……

「表したいことが思い浮かばない」「まだ考え中」  
このような言葉が聞こえたら、発想や構想に困っているのかもしれませんが、  
▶「他の友だちがしていることを一緒に見てみよう」(友だちの活動例をヒントにする)  
▶「違う材料もあるけど、試してみる？」(選択肢を示す)  
というように、具体的な例からその子ができそうなこと、面白そうだと感じることを見つけられるように関わってみましょう。



### ● 失敗を恐れてじっくり考える子には……

材料や用具を触っているものの、なかなかその先へ進めない子どもは、もしかすると「失敗したくない」という気持ち強いかもしれません。そのような場合には、  
▶「したいことがあるけど失敗しそうだと感じているのか、漠然と失敗するかもと感じているのかを見取り、具体的なアドバイスをを行う」  
▶「可能な範囲で、やり直しができるような材料を用意しておく」などの支援を行うとよいでしょう。



### ● 自信がなく(苦手意識が強く)、 躊躇しがちな子には……

図工という教科そのものや、何かを表現することに苦手意識をもっていたり、「何となく失敗しそう」「今回もきつうまくいかな」というような思いをもっていたりする子どもは、なかなか活動に入れないことがあります。そんなときはまず、やってみたいこと、面白そうだと感じる心が心の中に生まれているかどうかを探ってみましょう。また、やり直しができることを伝えて、安心して活用できるようにすることも大切です。



教師用指導書のココ!

授業前  
授業中  
授業後

# 4.ねらいに到達できるように支援しよう！



[こんな視点をもって取り組んでみよう]

## どのねらいに対するつまずきなのかを考えよう

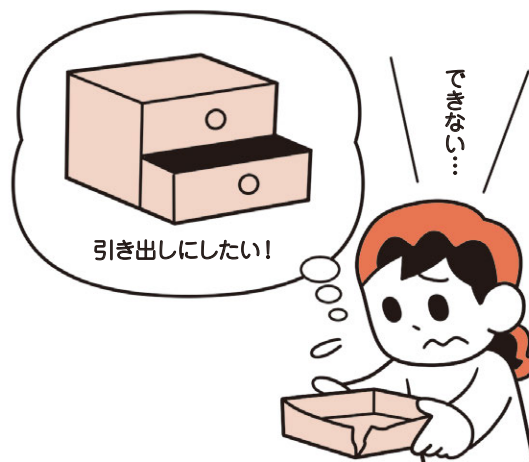
### ●いろいろ浮かぶけれど、どうしたらよいのか分からないあの子

材料を触ったり、表し方を試したりする中で「これもいいな」「違う方法も試してみよう」と発想は膨らむけれど、なかなか自分の表したいことや表し方を決められない子はいませんか？ そのようなときは、構想面での支援が必要です。



### ●つくりたいものはあるけれど、うまく表せないでいるあの子

一生懸命に表しているのに「こういう感じじゃない」「何回やってもうまくいかない」というつぶやきが聞こえたら、その子には技能面での支援が必要かもしれません。表そうとしていることや困っていることを聞き取り、アドバイスをしましょう。



### ●つまずきを二つのタイプに分けて考えてみよう

左ページの例のように、子どものつまずきは大きく二つに分けて考えることができます。

- ①構想面でのつまずき…表したいイメージが頭の中でなかなか決まらない
- ②技能面でのつまずき…イメージしたことを思うように表すことができない

これらのつまずきがあると、学習のねらいに到達するのは難しくなります。目の前の子どものつまずきがどのタイプなのかを捉え、適切な支援を行いましょう。

### ●構想面での支援

「今、どんなことを考えていたの？」  
「いいなと思っていることはある？」  
「何か迷っている？」

などの言葉をかけながら、どんな発想が生まれているかを見取ったり、漠然としているイメージが具体的になるように、形や色の視点からアドバイスをしてみたりしましょう。

子どもの思いを大切に「こうしたい」から「こうしよう」という子どもの主体的な活動になるための支援です。



### ●技能面での支援

「カッターナイフがうまく使えず、思い通りに線を切れない」  
「絵の具できれいな色をつくりたいのに、いつも汚くなる」

など、材料や用具の使い方につまずきがあるときは、子どもの前でやって見せたり、一緒にやってみたりするとよいでしょう。その子がつまずいている内容に応じて、使い方のコツなどを伝えながら「次はできるかも」と見通しをもてるよう支援しましょう。



教師用指導書のココ！

## 5. 子どもの工夫や意図をキャッチしよう！



[こんな視点をもって取り組んでみよう]

### 子どもの工夫や表したいことは、活動の評価につながる

#### ●子どもの視線の先、手元の動きを見よう

ふと見ると、活動に取り組んでいた子どもの動きが止まっていることがあります。子どもの表情や手の動きなどを見て、困っている様子が感じられないときは「この次どうしようかな」「これはどうかな、もっと〇〇したい」というような、次の工夫につながることを考えているのかもしれません。それはそのまま、題材の目標(=評価)とつながっています。「今、どんな感じなの？」と声をかけ、考えていることを探ってみましょう。



#### ●子どもの「工夫や表したいこと」を受け止めよう

大人が「上手だな」「上手な表現はどれかな」と感じる見方だけで活動や表現を見ると、子どもの意図や工夫を見逃してしまいます。子どもの工夫は「自分の作品をもっと〇〇したい」という願いや思いから生まれてきます。一人ひとりに寄り添い、考えていることや、表そうと工夫していることを見付けていきましょう。



#### キャッチできたら①

##### ●写真や短い動画で記録してみよう

その時間のねらいや目標に対して、先生がよいと感じた子どもの工夫や表現の変容などは、写真や短い動画(30秒程度)で記録していきましょう。子どもの目線や手元の動きなども合わせて撮影しておく、あとで振り返ったときに具体的なエピソードとして思い起こすことができます。



#### キャッチできたら②

##### ●引き出す声かけをしてみよう

どんな言葉をかけられたら、子どもが「うれしい」「話したいな」と感じるでしょうか。子どもの目線や立場で、かける言葉を考えてみましょう。



教師用指導書のココ！



指導解説編 → 各題材 → 題材の目標/指導の手立て/評価規準例



指導者用デジタル教科書(教材) → 授業動画

## 6. 「指導に生かす評価」はなぜ必要？

### ● みんなが資質・能力を

#### 発揮できるように

作品から子どものよさを見取ることもできますが、活動中に目の前で子どもが資質・能力を働かせているそのときそのときの姿から見取ることが大切です。活動が停滞している子どもを見付け、目標とする資質・能力が発揮できるように支援を行おうとすると、その時々様子を把握する必要があります。それは、子どもの活動を近くで見ながら指導している先生にしかできないことです。

その積み重ねが、評価の妥当性につながります。



### ● 自分の中に引き出しを増やす

最初に、目標とする資質・能力を発揮している具体的な姿(B規準)を想定しておくことが必要だとお伝えしました(10ページ)。最初は教科書を参考に考えるのがよいですが、実際の子どもの姿を見取ること、何が発想のきっかけになるのか、どのような反応をするのか、教師の中に子どもを理解するための引き出しが増えていきます。より具体的な子どもの姿をイメージできるようになることが、授業改善や教師自身の成長につながります。



### ● 記録のポイント

#### ▶ さまざまな方法で

静止画や短い動画、メモなど、ICT機器も活用しながら記録する。



#### ▶ え〜! すごい!

先生がすごいと感じた子どもの様子、考えなどをよさとして記録する。

#### ▶ 困りごとやつまづき

目標とする姿に向かえるよう、適した支援を行い、経過を記録する。



#### ▶ 子どもの言葉も一緒に

子どもが話していた言葉も一緒に記録するとあとで様子を思い出しやすくなる。

## 7. 時間内に活動を 終わらせるようにしよう



【こんな視点をもって取り組んでみよう】

### 👉 子ども自身がやるべきことを考えられるように

#### ● 時間を区切って、 活動の終わりをイメージする

活動の終わりが近付いたら「残り10分だよ」「〇時〇分には片付けを始めるよ」など時間を明確に指示します。その上で「今日ほどまで進めるか決めよう」など、自分の活動のゴールをイメージできるような声かけをしましょう。



#### ● 新しい活動には入らない

活動の終わりがイメージしにくい子には「新しい材料を使うのは〇時〇分までにするよ」「今やっていることで終わりにしよう」など、より具体的な指示を行います。



#### ● 時間内に終わらなかった子には

作品が完成しないなど、時間内に活動が終わらなかった子どもには、何を行いたいかわき取りたり、別の時間を保障したりしながら、個別に支援しましょう。



## 8. 学習の振り返りをしよう /



[こんな視点をもって取り組んでみよう]

### 次時や完成につながる振り返りを考えよう

#### ●「振り返り」自体が目的ではない

振り返りは、自分の表現でもっとよくしたいことや、新たに頑張りたいことを考え、次の時間の目標につながるためのものです。そのとき、漠然と「振り返ってみよう」と促すのではなく、例えば、次のような視点を子どもに提案すると、具体的に考えやすくなります。

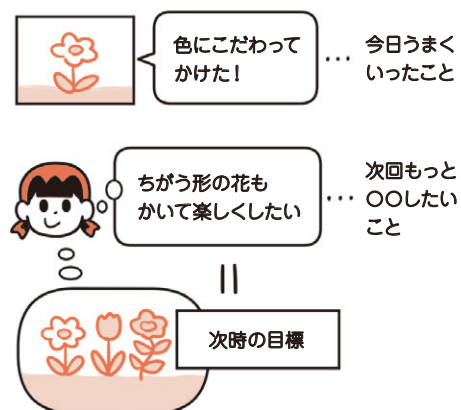
- ▶自分の考えた「目標」「頑張ること」についてどうだったかな?
- ▶今日の授業で「うまくいった」「いい工夫ができた」ところは?
- ▶「もっとこうしたい」「こうすればよかった」ところは?

#### ●毎時間、同じ方法じゃなくてもOK

終わりの時間ギリギリまで活動をして、慌ててワークシートに書くような振り返りをしても、落ち着いて考えることが難しい子もいるかもしれません。短い時間しか取れないときは「うまくいったと思うことを一つ見付けて、友だちと話そう」と促すこともできます。子どもにどんなことを考えてほしいのか、そのためにどんな方法がよいのか、考えておきましょう。

#### ●学年の発達に応じた振り返りをしよう

考えたことをワークシートに書くとしても、1年生と6年生では内容や量も大きく異なります。次のページの方法などを基に、目の前の子どもに合った方法を考えてみましょう。

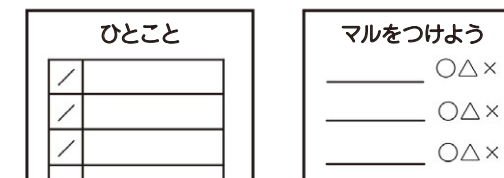


## ぴったりの方法を選ぼう

言葉に表すことに限らず、写真を撮ったり、すてきな表現を探したりするなど、活動を通して振り返ることで、一人ひとりの見方も深まります。

#### ●ワークシートなどに書く

感じたことや考えたことをワークシートなどにメモしておく、次の学習が始まる前に思い返すことができます。振り返りのテーマに沿って考えたことを文章や図でかいたり、自分なりの評価を何段階かで○をつけておくなど、発達や活動内容に応じてワークシートの項目を考えましょう。



子どもに合った形式に



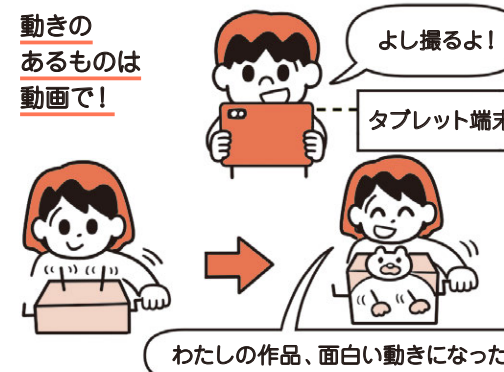
#### ●友だちと伝え合う・見付け合いをする

友だち同士で作品を見たり、よさを伝え合ったりすることで、違う視点で自分の作品のよさに気付くような振り返りもできます。下記のようなテーマ例を設定しておく、作品を見る視点が明確になり、伝える内容も具体的になります。

- ▶あなたの作品のすてきなところはね……
- ▶あなたの作品に名前を付けるとしたら……
- ▶あなたのテーマに合っていると思うところは……
- ▶私が自慢したい工夫は……

#### ●写真や動画で撮る

タブレット端末を使い、自分の作品の「いい工夫ができたところ」などを撮影して振り返りをすることもできます。「どの部分を撮ろうかな」と作品を見つめることで、改めて自分の考えや工夫、作品のよさを振り返ることにつながります。



教師用指導書のココ!



解説 指導解説編 → 各題材 → 指導の手立て/指導計画



指導者用デジタル教科書(教材) → ワークシート



## 9. 片付けも大切な学びの一つ! /

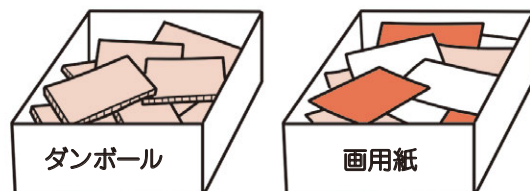
図工ではさまざまな用具や場所を使います。活動を楽しむだけでなく、そのあとに用具や場所を使う人のことを考え「使う前よりもきれいにしよう」という気持ちで片付けに取り組めるようにしましょう。

[こんな視点をもって取り組んでみよう]

### 👉 材料を大切に作る心を育てよう

#### ● 共通の材料や用具

共通の材料は箱などを用意して、種類ごとに分けて保管しましょう。用具は教卓の近くに用具コーナーを設けます。刃物などを片付けるときは安全に配慮しましょう。用具の数の確認も忘れずに。



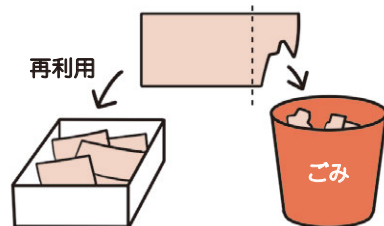
#### ● 個人の材料や製作途中のもの

次の時間にも使用するものは、記名したビニル袋やクリアファイルなどに入れ、子どもが各自で保管するか、先生がまとめてダンボール箱に入れて保管します。



#### ● 分別名人に!

使い終わった材料の中にはまだ使えるものが混ざっていることも。「うまく使えばお宝材料」と伝えて集めておきましょう。画用紙の切れ端などはカットして使える部分を残しておくといいですね。



#### ● 活動場所の清掃

自分の場所を片付けたら、教室全体の清掃を行いましょう。丁寧に掃除する姿勢を褒める声かけも大切にするといいですね。



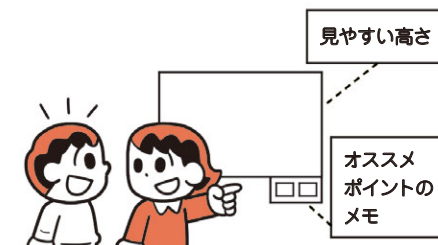
## 1. 子どもの考えたことや工夫が伝わる展示をしよう /



### 👉 何のための展示か、意味を考えてみよう

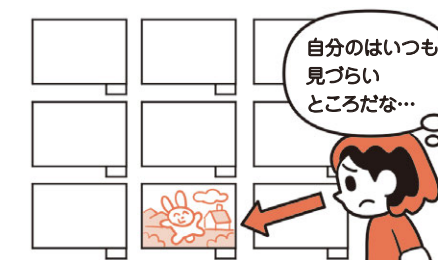
#### ● 鑑賞の場になるように掲示しよう

廊下に作品を掲示すると、そこは子ども同士の鑑賞の場になります。「すごい工夫だね」「きれいな色!」と、感じたことを話したり伝えたりする姿が生まれます。気付いてほしいところが見やすいよう意図的に掲示するなど、工夫してみましょう。



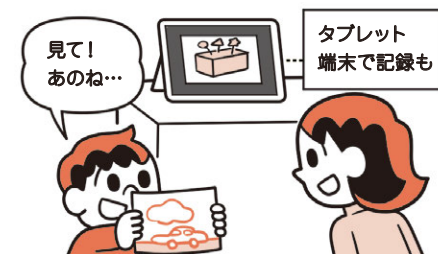
#### ● 子どもの気持ちになって見てみよう

掲示板の中でも、子どもの目線より高かったり低かったりして見づらい場所があります。子どもは自分の作品がどの位置に掲示されているのかよく見えています。毎回見やすい場所に掲示されている作品が「上手な作品だ」と誤解を招かないようにしましょう。



#### ● 保護者と子どもの成長を共有する

掲示期間を終えた作品は大切に持ち帰り「おうちのひとと作品について話してみてね」と伝えましょう。造形遊びや持ち帰りにくい立体作品などは、各自のタブレット端末で撮影しておく、家でも見ることができます。



## 2. 一つの題材が終わったら /



### ● そのときそのときの見取りをつなげ、 題材を通した評価へ

一つの題材が終わったら、評価規準を基に記録した子どもの様子を振り返ってみましょう。先生がその子のよさとして見取った姿を、3観点に沿って資質・能力で整理することで、題材を通した子どもの評価が見えてきます。

もし題材を通して記録の少ない子どもがいた場合、そのあとの題材で意識して見取り、記録をするようにしましょう。複数の題材の評価を総合して、指導要録の評定へつなげていきます。



### ● 他の先生と作品を見ながら話し合ってみよう

掲示板や廊下などに掲示した子どもの作品は、先生同士の見方を交流するチャンスです。会話の中から、子どものよさに改めて気付くきっかけになることもあります。また、先生自身の評価観を成長させる機会にもなります。



### ● 子どもの成長を保護者に伝えよう

動画や写真など、評価規準の3観点に沿って整理した評価資料は、保護者会などで子どもの成長を伝える資料にもなります。掲示している作品や写真などの映像を見せながら、具体的なエピソードを添えて伝えてみましょう。

「時間がない」  
「忙しい」ときこそ！

# 教師用指導書を うまく活用しよう

よりよい授業をしたいけれど時間がない、忙しい。そんな先生をサポートするのが教師用指導書です。豊富なコンテンツで先生の「困った」「あったらいいな」に応えます。





# ? 教師用指導書コンテンツ

先生の **困った…** や **あったらいいな** に応える

評価規準や  
指導のポイントが  
知りたい

時数に合わせた  
展開や、具体的な  
発問や声かけの  
例を知りたい

QRコンテンツを  
いつ、どこで、  
どのように使えば  
いいかを知りたい



安全で適切な  
材料や用具の  
使い方を知りたい

教科書や掲示用  
資料をモニターに  
映せたら便利だな

鑑賞の授業を  
サポートしてほしい

## 令和6年度版 教師用指導書コンテンツ一覧

朱書編 [冊子]	QRコンテンツ活用ガイド [冊子]
解説 指導解説編 [冊子]	アート・カード [カード/冊子]
材料・用具編 [電子ブック]	大判掲示資料 [紙資料]
指導者用デジタル教科書(教材) [デジタル]	これで解決! 図工の授業 [電子ブック]

掲載している紙面等は全て編集中的ものです。変更になる可能性があります。

# 朱書編

[冊子]

教科書紙面と照らし合わせながら活動の流れや評価のポイント、指導の手立てなどを確認することができます。授業の準備に必要な情報が詰まった一冊です。

こんなときに  
使えるよ



## 1 子どもの姿を具体的にイメージしよう

「育てたい子どもの姿」と、教科書の活動写真や作品を例に「資質・能力を発揮する子どもの姿」を具体的に説明しています。

## 2 資質・能力に基づく目標を考えよう

題材の目標を3観点6項目で丁寧に示しています。表現の題材は鑑賞活動と往還しながら学習を進めることができます。

**1 育てたい子どもの姿**  
仕組みを生かして面白いものをつくることに興味をもち、いろいろな試しがはたらくことを楽しむ子ども。

**2 資質・能力を発揮する子どもの姿**  
クランクの動きをいろいろな方向から見て、飾りや付けた動きを確かめたりしながら、動きを覚えていく。(10)  
クランクの両側に穴を開けて動かす(10)、箱の横から押すような動きを生かす(10)など、仕組みの使い方を工夫している。紙テープを使うことで動きの面白さを強調したり(10)、紐をスズランテープで伸び縮みできるように、さらに細い紐を使って調節したりする(10) 材料の使い方を工夫している。(10)

**3 授業の流れをつかもう**  
学習指導案の簡略版を掲載しました。教科書紙面と合わせて授業の流れを確認することができます。

**4 指導のポイントを押さえよう**  
安全指導、技能面でのつまずきに対する支援、意欲を引き出す導入など、実際の授業に即したポイントを解説しています。

- どんな準備が必要かを確認したい
- 評価する子どもの姿や作品を理解したい
- つまずきのフォローや安全指導のポイントを知りたい

## 5 準備物、場所や配置を考えよう

材料・用具、活動の充実を図る準備物、片付けの際のポイントを紹介。ほかにも活動しやすい場の設定など授業の準備に役立ちます。

## 6 材料・用具の使い方を確認しよう

QRコードから材料・用具の使い方の詳しい解説を参照できます。手元のタブレット端末からいつでも確認できます。

**5 授業の準備**  
材料・用具  
スズランテープ (8〜10巻程度)、ペンチ、ラジオペンチ、きり、手拭紙、色紙、色画紙、両面テープ、ストロー、竹べし、竹ひし、カッターナイフ、カッターマット、木工用接着剤、化学接着剤 など

**6 もっと詳しく！材料・用具**  
- 針金  
- ペンチ、ラジオペンチ  
- 両面テープ

**7 子どもの作品の見方を知ろう**  
教科書に掲載されている作品について、使われている技法や、発揮されている資質・能力などを解説しています。

**8 関連資料もチェック**  
発達の段階とともに学びを深めることができるよう、関連する題材や教科を示しています。教師用指導書の関連コンテンツも一目で確認できます。

導入・展開・振り返りの流れが  
分かりやすい!



教科書の誌面が  
載っているからイメージしやすいな



材料・用具から場所  
や配置、板書例まで  
載っているんですね!

子どもが自ら必要な  
情報をキャッチできる  
場づくりをしましょう



# 指導解説編

[冊子]

目標や評価規準はもちろんのこと、各題材の児童観、題材観、指導観といった指導する上で押さえておきたい視点や、時数に合わせた展開例について解説しています。

こんなときに  
使えるよ



## ① 題材についての理解を深めよう

「題材設定の理由」では、児童観、題材観、指導観の三つの観点から題材を説明しています。

## ② 目標～手立て～評価の関連性を知ろう

各題材において3観点6項目の目標を示し、項目ごとに具体的な指導の手立てと評価規準例を解説しています。

- 目標に到達するための手立てを知りたい
- 指導と評価を一体的に進めたい
- 具体的な発問や声かけの例を知りたい
- 授業の展開例を具体的に知りたい

くるくるクランク

教科書 5・6下 p.22-23 | 時数 6～8 時間

育てたい子どもの姿  
仕組みを生かして面白いものをつくることに興味を持ち、いろいろな試みをする子ども。

指導観コンテンツリンク  
学習目標  
・動きを伝えたい姿を伝えること  
・イラスト教材「ハンチの使い方」  
指導観  
・授業計画  
・授業進行ワークシート  
・振り返りワークシート

材料・用具  
児童観  
ベム、はさみ、のり など  
指導観  
スチール針金（18～20番程度）、ペンチ、ラジオペンチ、きり・千枚通し、色紙、色画用紙、ストロー、竹くし、竹ひご、カッターナイフ、カッターマット、木工用接着剤、化学接着剤 など

題材設定の理由  
児童観観：この時期の児童は、材料や用具の扱い方も巧みになり、表し方法にこだわって作る姿が見られる。また、動きなどの造形的特徴を取り出し、言葉で置き換えて説明する姿も見られるようになる。  
題材観：本題材では、クランクの仕組みを使った動きを生かしておもちゃをつくる活動を通して、動きから発想し表し方を考える力や、針金を通った経路を生かして仕組みをつくりたい仕組みの生かし方を工夫したりする技能を育てる。  
指導観：指導に当たっては、ペンチの使い方や針金の扱い方を振り返り、針金を直線に曲げる方法を丁寧に指導する。また、クランクの仕組みの作例は複数のパターンを提示し、いろいろな方向から見ながら、表したいことや表し方を考えるよう促す。

題材の目標  
指導の手立て  
評価規準例

1 知識及び技能  
2 思考力、判断力、表現力等  
3 学びに向かう力、人間性等

1 知識及び技能  
2 思考力、判断力、表現力等  
3 学びに向かう力、人間性等

1 知識及び技能  
2 思考力、判断力、表現力等  
3 学びに向かう力、人間性等

## ③ 児童の学習過程を把握しよう

子どもの学習過程とともに、短時間と長時間で実践する場合の時数と時間配分の目安を示しています。

## ④ 指導のポイントや発問例をチェック

教師が子どもに投げかける言葉の例や、それに対して想定される子どもの反応をつづやきの形で例示しています。

くるくるクランク

授業計画

1 動きから、つくりたいものやつくり方を考える。 短：全6時間 15分 長：全8時間 45分  
2 つくりながら、動きや形や色などの特徴を理解する。 235分 270分  
3 動きのよさを味わいながら、自分の表現を見直す。 20分 45分

児童の活動  
指導のポイント / 評価する子どもの姿

1 動きから、つくりたいものやつくり方を考える。  
2 つくりながら、動きや形や色などの特徴を理解する。  
3 動きのよさを味わいながら、自分の表現を見直す。

1 知識及び技能  
2 思考力、判断力、表現力等  
3 学びに向かう力、人間性等

1 知識及び技能  
2 思考力、判断力、表現力等  
3 学びに向かう力、人間性等

1 知識及び技能  
2 思考力、判断力、表現力等  
3 学びに向かう力、人間性等

目標と手立てと評価が一覧になっていて便利ですね!

目標に向かって何を、どうするのか、どんな観点で評価するのが一目で分かるので、指導と評価を一体的に進めることができます

⑤ 実態に応じて時間を調整しよう  
活動時間を延長したほうがよいと考えられる子どもの様子や、次の活動に移るタイミングなどに関する配慮事項を示しています。

⑥ 評価する子どもの姿  
題材の評価規準に基づき、授業のどの場面で各観点の評価を行うか確認することができます。

一例なので、参考にしつつ学校や子どもの実態に合わせてどんどんカスタマイズするといいね

他にも!

## 充実の教師用指導書コンテンツ

手元のタブレット端末からいつでもすぐに確認できる電子ブック版「材料・用具編」、学びを広げる「指導者用デジタル教科書(教材)」や「QRコンテンツ活用ガイド」のほか、「アート・カード」や「大判掲示資料」といった授業で使えるコンテンツもセットになって、先生方の授業づくりをサポートします。

### 材料・用具編 [電子ブック]

材料の特徴、用具の安全な使い方など、図画工作で使用する材料・用具の基礎から応用までを詳しく解説しています。



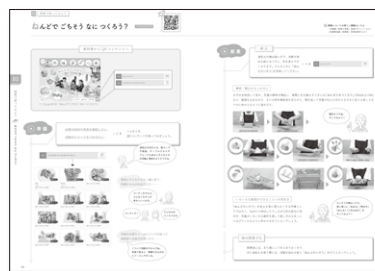
### 指導者用デジタル教科書(教材) [デジタル]

電子黒板に映したりポイントをかき込んだりできるデジタル教科書に加え、授業動画やワークシート、年間指導計画例など豊富なコンテンツを収録。



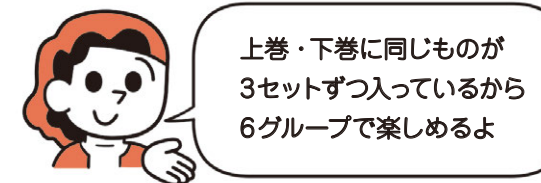
### QRコンテンツ活用ガイド [冊子]

「KOMA KOMA × 日文」「アート・カードアプリ」の使い方、授業での「ずこうたいそう」の取り入れ方など、QRコンテンツの効果的な活用法を紹介します。



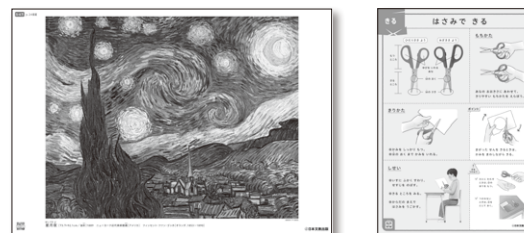
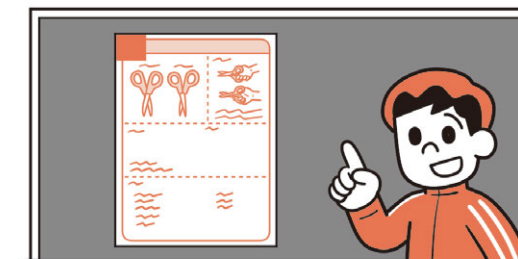
### アート・カード [カード/冊子]

「作品」「素材」「言葉」の3種類のカードを使ってアートゲームをすることができます。解説冊子には、作品の詳しい情報やカードの使い方、学習指導案例などが掲載されています。



### 大判掲示資料 [紙資料]

材料・用具の使い方、身近なものの鑑賞、美術作品などを大判ポスターにしました。授業時に教室に貼って指導したり、図工室に掲示して学びを深めたりすることができます。



### これで解決! 図工の授業 [電子ブック]

本冊の電子ブック版を収録。電子ブック版では、年間指導計画作成のポイントも詳しく解説しています。

執筆 中村珠世

1972年生まれ。小学校主幹教諭。北海道教育大学大学院(美術教育)修了。北海道教育大学附属札幌小学校に9年間勤務後、札幌市内の公立小学校で図画工作の指導を行う。

監修 阿部宏行

1954年生まれ。元北海道教育大学教授。中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会 幼児教育部会委員、同芸術ワーキンググループ委員(平成29年)などを歴任。

デザイン 菊地昌隆(Ball Design)  
イラスト コルシカ

先生の疑問や悩みに応える／

# 日文のWebコンテンツ

## 図工のお悩み相談室

「自分が絵がへたなのに、図工の授業で子どもに教える自信がありません」「評価がどうしても主観的になってしまう気がします……」など、日々子どもたちと向き合う中で生まれる先生方の疑問や悩みに、ベテランの先生がお答えします。



## 図工のABCシリーズ

さらに図工や子どものことを知りたくなったら、本書監修の阿部宏行先生による「ABCシリーズ」がおすすめ。かわいい4コマ漫画と温かい語り口のコラムによる構成で、長年にわたって小学校の先生方に支持されています。日文の公式Webサイトで公開中。



### 読者の声

ABCシリーズは校内研修で使用し、学校全体の授業が変わったことを実感しています。

一緒に  
考えよう



## これで解決！ 図工の授業

日文 教授用資料

令和5年(2023年)9月25日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD333647

## 日本文教出版 株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16  
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14  
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B  
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1  
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690